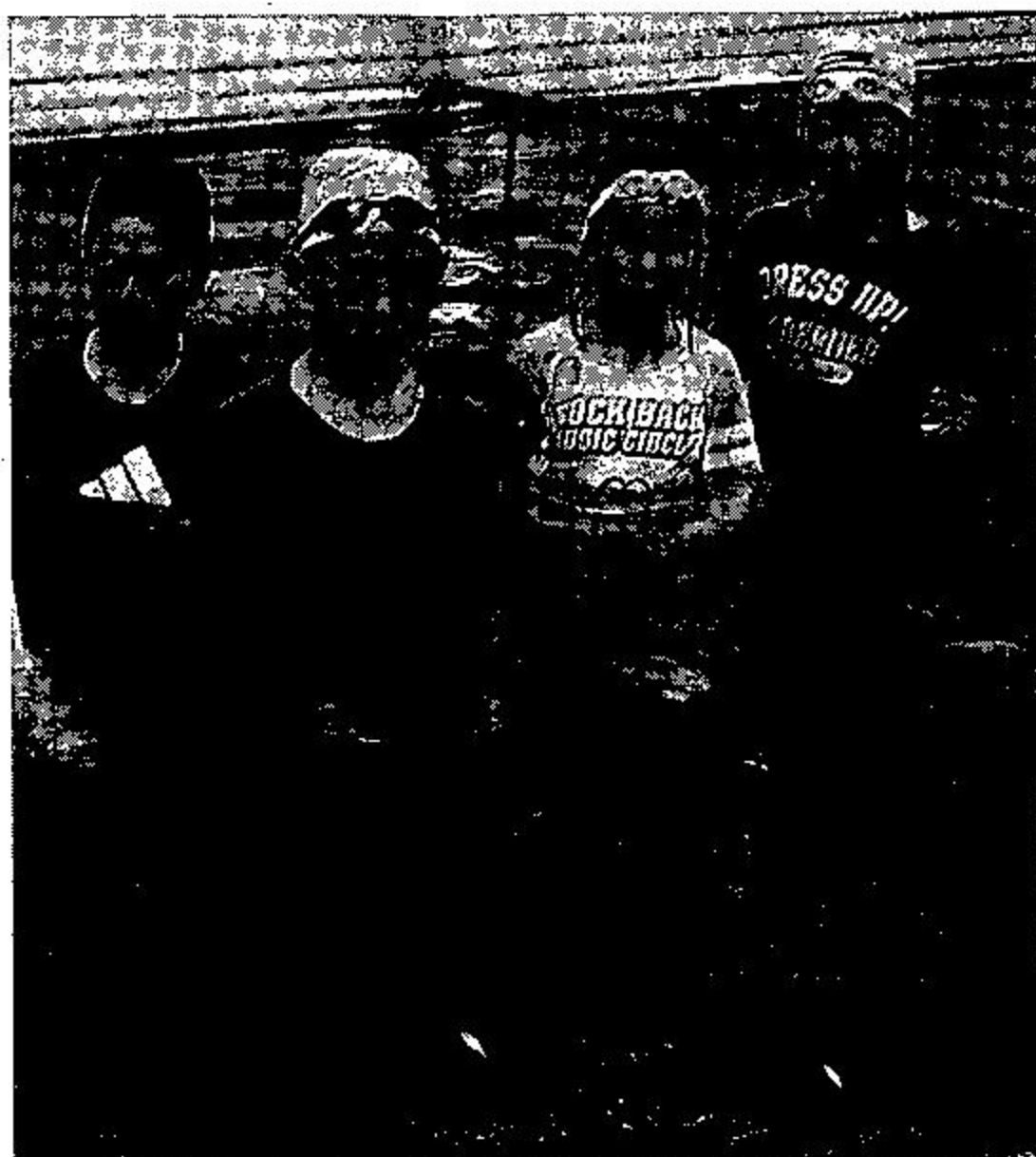


着衣のままどう逃げ

着衣状態で水に落ちた場合に自分の命を守る方法などを学ぶ「着衣水泳講習会」が27日、豊田地域文化広場の室内プールで開かれ、小学1年—6年生の児童10人と保護者2人が参加した。同広場の指定管理者ホームックス(錦町、餅原幹也社長)が主催。

講習会は25分以上泳げる児童を対象に約1時間行われた。参加者は長袖、長ズボン、靴姿のままプールに入り、泳ぎにくさを体感。その上で、浮いて助けを待つ方法や、棒な

講習会 救命え備態の事 不測の ホームックス



プールの中で着衣したまま動く難しさを体感する参加者ら＝豊田地域文化広場で

どを利用する救助方法を学んだ。

親子で参加した石川俊典さん(35)は「自分は泳げないが、子どもが溺れたら飛び込んでいた。助け方を学べてよかった」。息子の大起くん

(10)は「全然泳げなくて怖かった。溺れたらどうすればいいか分かった」と話した。

指導した日本赤十字ボランティア指導員大村彰彦さんは「着衣状態で泳ぐことは、どんなに泳ぎが得意な人でも不可能。事故に遭った時に対処できる知識と技術を身につけることで助かる確率は確実に上がる。泳いで助かろうとせず、助けを待つこと、助けようとして水の中に飛び込まないことが大事。1番は溺れやすい所、危険な所に行かないこと」と力を込めて話した。

【九郎田宏之】